

送辞

数年ぶりと言われた記録的大寒波からはや1ヶ月。次第に雪も溶け始め、厳しい冬を耐え抜いた木々の蕾が花開こうとする季節となりました。かくもよき日に卒業生の皆様が、ご卒業を迎えられましたことを、在校生一同、心よりお祝い申し上げます。

先輩方は、高志高生として過ごしてきたこの三年間をどのように振り返っておられるでしょうか。青々とした緑葉の生い茂る中庭。十五分間思いっきり走ったグラウンド。昼まで我慢できずに食べて

しまった昼ごはん。ぎりぎりまで友達と話し、まるで一瞬のように感じられた休み時間。肩を組み、笑い転げた日々。

今、数えきれないほどたくさんの思い出が頭の中を駆け巡っているのではないかと思います。

今日、新型コロナウイルス感染症による影響はようやく落ち着きを見せ始めましたが、それでもこの三年間思い描いていた高校生活を送ることは困難だったと思われます。しかし、そのような中でも仲間と共に目標に向かって努力し、これまで積み重ねてこられた全てを注いで励

む先輩方の姿はとても凛々しく、私たちが在校生の瞼の裏に強く焼き付いていきます。そして何より、先輩方は様々な場面で私達在校生を支え導いてくださいました。部活動では、いつも優しく時に厳しく指導してくださり、私たちが躓いたときには、優しく手を差し伸べてくださいました。何度も泣き、その度に励まされ、救われ、そして笑い合ったこと、すべてが今では大切な思い出となっていてます。また、学校行事では常にリーダーとして先頭に立ち続けていらっしやいました。特に今年度の学校祭は、台風十号の

接近により、学校祭の実施自体が危ぶまれるという危機的状況にありました。しかし、先輩方のご尽力と先を見据えた迅速な判断、そして何より学校祭をやりたいと願う、その熱い想いにより、見事予定通り実施することが出来ました。その後も、強風や大雨の影響で体育祭当日まで作業をしていた部門が見られたり、猛暑により体育祭が短縮されるなど、様々な問題が発生し、全てが想定通りには進みませんでした。しかし、各色がそれぞれ固く結束し学年の垣根を越えて全力で挑んだ学校祭は、一人一人が笑顔に溢れ

て煌めいており、まさしく「煌志繚乱」
が体现されていたように思います。一方
で、放課後には教室や図書室、自習室で
必死に勉強し、進路支援室の前のスペー
スで先生に主体的に質問したりされてい
る先輩方の姿がありました。挫けること
なくひたむきに努力する姿は私たちに、
進路志望を実現することの厳しさ、そし
て夢に向かって常に努力をし続けること
の大切さを教えてくださいました。私達
在校生は、先輩方の培ってきた思い、築
き上げてきた高志高校の伝統を受け継
ぎ、さらに発展させていく覚悟でありま

す。

さて、近年日本国内外問わず、その社会情勢は例を見ない著しい変化の最中にあります。これから先、夢へと向かって歩んでいく道において、挫けることなく、まっすぐに歩み続けることは容易ではないでしょう。夢を持ち続けることが困難に感じたり、自分に限界を感じてしまうこともあるかもしれません。かつて神童と呼ばれた、かの有名なオーストリアの音楽家、モーツァルトの言葉にこのようなものがあります。

“ We dream, so our life brightens.” 「夢

を見るから、人生は輝く」

私はこの言葉から、モーツァルトを始めとする多くの偉人たちが偉業を成し遂げ、偉人となるに至ったのは夢を見ることを止めなかったからであると考えます。夢とは、将来自分になりたい姿、自分がやりたいことです。実現可能か、不可能かは今、私たちが決めることではありません。そして、夢とは希望であり原動力です。夢を持ち続ける限り、可能性は無限大に広がります。この高志高校での経験を糧に、自分を見失うことなく、胸に秘めた大きな夢と高い志を持って、

自身の可能性に挑戦し続けてくださることを願っています。

最後になりますが、本校の校訓である
克己・創造・敬愛の下、それぞれの夢に
向かって、自分の信じた道を疑うことな
く、一歩、一歩、前へと進んでいって
ください。卒業生の皆様のこれからのご健
康と益々のご活躍を心からお祈りし、送
辞とさせていただきます。

令和七年三月四日

在校生代表 水野嵩大